

特色ある私学経営につき現地見学会

見学プログラム

7月27日(水) 追手門学院大学

(学校法人追手門学院 理事長 川原 俊明先生)

12時45分集合 茨木総持寺キャンパス大学棟1階 WILHALL

学園ご関係者挨拶、大学の概要及び方針のご説明、
質疑応答の後、施設見学。 16時頃現地にて解散予定。

学園のご紹介

学校法人追手門学院の淵源は、1888(明治11)年に豊臣時代の大坂城内にあたる区域に設立された大阪借行社付属小学校(今の追手門学院小学校)にさかのぼります。創設者は薩摩出身で後に明治政府の閣僚も務めた高島鞆之助です。西郷隆盛を敬愛し、薩摩独特の郷中(ごじゅう)教育の考えを実践しました。

そうした高島の思いを受け継ぐ追手門学院は、関西の私立学校の中では比較的早くから総合学園化を進めました。1969(昭和44)年には幼稚園から大学・大学院までの一貫教育体制を整え、2013(平成25)年には幼稚園に保育課程を併設して幼保連携型認定こども園とし、現在は「独立自彊・社会有為」の教育理念の下、0歳児から大学院生まで約1万人が集う総合学園です。

追手門学院大学は大阪府茨木市にあり、文・国際・心理・社会・経済・経営・地域創造の7学部と大学院3研究科合わせて約8,300人の社会科学系総合大学です。2021(令和3)年4月に心理学部心理学科に人工知能・認知科学専攻を開設し理工系分野に進出しました。迅速な意思決定を可能にしたガバナンス改革により、入試改革および教学改革を進めたことで、2022年度入試までの総志願者数は10年連続増を達成しました。

2018(平成30)年の追手門学院創立130周年を機に、「行動して学び、学びながら行動する」を表したWIL(Work-Is-Learning)という独自の新教育コンセプトを発表しました。このWILを現代版の郷中教育ともいえる「学びあい、教えあい」を通じて実現するため、JR総持寺駅徒歩圏内に新キャンパスを2019(平成31)年4月に開設し、全学部1年次生に加え、地域創造学部と国際教養学部(現在の文学部、国際学部)が移転し、また、追手門学院中・高等学校は全面移転しました。大学棟・アカデミックアーク、中学高校棟・スマートパレットともに中心部に設けた図書スペースを囲むように教室を配置し、電子図書システム、BYOD(ノートPC等を1人1台携帯する取り組み)を導入して「学びあい、教えあい」を促進する環境を整えています。他に類を見ない外観は、常に改革に取り組む追手門学院の姿を象徴したものです。

こうしたハード整備と教学改革はコロナ禍にあっても学生・生徒の学びの継続を支え、大学の授業を行うとともに、多様な学びの形態を提供することができました。この実績をベースにポストコロナを見すえ、最適な手法で学生の学びの最大化を目指すMATCH(MAXimized-TeaChing)による「教育DX」の取り組みも、文部科学省「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」に関西の中規模私立大学で唯一採択されるなど、高い評価を得ています。

2023(令和5)年4月には法学部(仮称・設置構想中)を設置し、法的な知識はもちろん幅広い視野と発想力を鍛え、自ら問題を発見し解決する力を養うことで、行政機関や企業の第一線で新しい時代の変化にも対応できる人材を育てます。

また、茨木総持寺キャンパスに新校舎を建設し、既存の学部・大学院および本部機能を集約。2025年4月からメインキャンパス化を行い、将来的には理系学部の開設構想などと合わせて学部学生1万2千人規模の実現を図ります。

